

会社概要
 ●設立 1948年6月 ●売上高 約12億4500万円
 ●所在地 群馬県桐生市浜松町1-13-24 ●URL http://www.asakura-senpu.co.jp
 ●TEL 0277-44-3171

るのかを考えたとき、超撥水加工技術だろうと思いました。理由は、かつて取引先（原糸メーカー）と共同でムレないおむつカバーを開発したことがあったからです。以前はビニール製のカバーを使用していたので、乳幼児のお尻がかぶれるなどの問題がありました。そこで、当社がニット製のカバーに超撥水加工することで通気性を保ちながら、汚物が染み出さないようにしました。米国から使い捨ての紙おむつが入ってくるまで大変な人気商品でした。そうした開発経験を生かして風呂敷を作れば、他社との差別化をはかることができます。1000年以上も続く風呂敷の世界に新しい風（イノベーション）を注ぎ込むこともできるだろうと考えたのです」と語る。

それにしても、超撥水加工技術を使って風呂敷を作ることには理由は何だったのだろうか。朝倉社長は「理由はいくつかありますが、第一に風呂敷は水着やスポーツウエアなどと違って、使う人によってS・M・Lサイズなどがないこと。第二に流行り廃りもあまりないことです。要するに商品化するうえで比較的リスクが小さいと考えたわけです」と説明する。



朝倉剛太郎社長（左）と久保村健吉常務

とはいえ、『ながれ』が世の中にも認められ、コンスタントに売れるまでには少なからず苦労はあった。朝倉社長は「幸運だったのは06年に発売して間もなく、地元の日刊紙がながれを取り上げてくれたことがきっかけで、全国紙やテレビでも『水も運べる風呂敷』という感じで紹介していただいたことです」と話す。

このようにメディアで紹介されたことを足場に、そこから販売チャンネルの開拓にも力を入れた。具体的には「日本流」というウェブサイトを立ち上げる一方、卸先として大手百貨店（呉服売り場）や和装雑貨の専門店を相次いで開拓し、現在約40店舗にながれを提供している。

標準サイズは、96センチ×96センチ（税込価格3570円）で、

デザインは40種類ほど。2011年11月にグッドデザイン・中小企業庁長官賞、同年12月に米国のグッドデザイン賞、今年7月にドイツの「レッドドット・デザイン賞」を受賞した。いずれも、100年以上も続く風呂敷に新しいテクノロジー（超撥水加工技術）を持ち込み、従来の概念を一新した点が高く評価されたからだと思われる。

「実際、ながれの場合、風呂敷らしからぬ使われ方をされることが多い。バッグにしたりショールにしたりして使う女性が最近増えていきます。今後もお客さまのニーズに合った商品を開発していきたい。2014年4月期は前期に比べて約30%増の2万枚を販売したい」と朝倉社長は話している。

取材協力：理理士法人向田幹士・本郷・岩倉 敬志

水も運べる超撥水風呂敷『ながれ』が女性に大人気

●朝倉染布

水も運べる風呂敷が国内外で注目を浴びている。昨年創業120周年を迎えた朝倉染布が開発した『ながれ』だ。なぜ風呂敷に目を付けたのか、どうやって軌道に乗せてきたのかを探った。



3カ国でグッドデザイン賞を受賞した超撥水風呂敷『ながれ』

1000年以上の歴史を持つ日本独特の「風呂敷」に新しい加工技術を持ち込み、3カ国（日本・米国・ドイツ）でグッドデザイン賞を受賞した企業がある。群馬県桐生市に本社を置く朝倉染布で、同社が2006年に開発した超撥水風呂敷「ながれ」は、しゃれたデザインもさることながら、水も運べる風呂敷として今や国内外で注目を浴びている。

同社の創業は1892年7月。地元では染色整理（委託加工）の老舗企業として知られている。染色整理とは、①精錬（編み工程等で発生した油剤などを除去すること）②染色③後処理（染色堅牢性を高めるために行われる処理等のこと）を一貫して行うことだが、1970年代に入ると、取引先の海外生産移転が本格化。パブル経済がはじけた後の2000年以降は、ユニクロに代表されるような低価格化旋風に見舞われるなど、常に染色整理業界はパイ（仕事）が奪われる脅威にさいなまれ続けている。

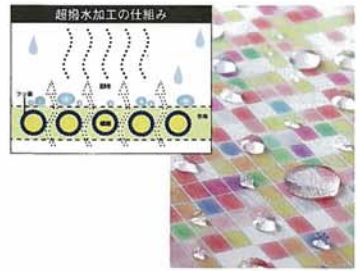
そんななか、同社は逆境を跳ね返す作戦に打って出た。第一弾は2000年に従来の「無地染め」一辺倒から、インクジェットプリンターを導入して「柄染め」に進出して事業領域を広げたこと。そして第二弾が、2003年に「自主販売事業」（脱下請け）に乗り出したことだ。

風呂敷の世界に新風

同社の朝倉剛太郎社長（43）は「従来のビジネスモデルは、①主要取引先の原糸メーカーが編み物業者へ糸を提供し、そこで編み立

てられた生地（染色される前の白生地）を、当社が取引先の仕様通りに染色して納品②それを取引先が生地問屋、アパレルメーカーなどに販売します。当社が主に染色しているのは、無地に柄にしる水着、スポーツウエアですが、あるとき取引先A社（商社）が倒産してしまい、その代物弁済として生地を受け取り、それをA社の顧客向けに染色加工して生地販売したのが自主販売の始まりです。

この超撥水加工技術というのは簡単にいえば右図のように、繊維のフィラメント一本一本の表面をナノ粒子の炭化フッ素で覆うこと。このため、生地全体を覆って浸水を防ぐ防水加工と違って通気性がよく、着心地がよいのが特徴。当初からこの事業に関わっている久保村健吉常務は「当社の技術を棚卸しして、何が一番アピールでき



超撥水加工の仕組み

しかし、従来の主要取引先とバッグを売るようなところに生地を売ることはできませんし、また生地販売では新参者で知名度も低かったため伸び悩みました。そこで、この「壁」を突破する方法として考えたのが当社独自の超撥水加工技術を使うことで風呂敷を開発することでした」と話す。